和歌七部之抄

秀歌大体

内閣文庫

秀歌之體大略下

源信明朝臣

内閣文庫

内閣文庫蔵書

天暦の御時の歌合に紅葉に寄する山風の歌

山風は新古今の部の落葉の歌に入る

明かしの月の月の光は

長雨晴れよ余情幽玄にして

侍りしとも一字の色あるべきにあらず

あや紋の錦を織る山の家集には

山の端の月の歌

山の端の月は初めて出づる月

うつもれぬ掩ひ隠すべきにあらず

又其しるしもなく大風しきりとみへてさま行方
しらぬ秋ぞ暮行といふ也

後鳥羽院御製

深緑あらそひかねていかならん間なく時雨のふるの神杉

時雨は色をそめまもなくて梢乃色をかへさするを
杉は色もかはらじとあらそひていかならんと
あらそひかねて何ならんといふさま思ひ給ふ也
く此歌も秀句にて時雨のふるの神杉とは
ふるといふ詞を一首にはなしたる事も
とうすらかすくいふ趣也

西行法師

淋しさに[illegible]里や[illegible]生駒の[illegible]山の里の
[illegible]かた[illegible]秋し
のやま山乃里やまとふりんと読之枝生駒の
山城大和河内三国の堺り給ふごとく
高き秋篠乃[illegible]山にて名乃高山也〇十市郡は
大和国乃郡乃[illegible]山をかれ行と
読りとおもふなり

藤原清輔朝臣

冬枯の杜乃朽葉乃霜のうへにおちたる月のかげのさむけさ

二

歌ハ明らかなる也大概正風体の歌しかく侍
もとは作して義理ゆりさ夏あし猶厳へし
西行法師也○小倉山麓の里りま寒き
まして猶よろしく侍れさやけさ是もおかし
又なへし三條攝政院入道家御兄弟御統云ふ
うかひは木葉落りて月の影みてさうしけり
又こそて月の風ゆるさきなへし
東坡　霜露既下木葉尽脱人影在地仰
見明月

君こそはまうりや社みん篠の葉の深山をまたよそにや霜の夜

一　波寒き夜ハ霜の如くむも篠すんと見え
おきて人めも作や思さやうま中ゆる也かな
夜とは人もよもや社すんとおけるひまで流く
うれしや作りん御兄弟御統云ふ歌の明日さ
と作まらひさうらん○作し我ま夜ハ人まの社
篠の氣のさやく霜夜とわら独すり此歌を第
そして猶かし

後京極摂政前太政大臣
かもしきの冰もむすほまとぬるゝ社夜の霜の
まれ夜の作よりて霜ときさの瀬の氷と流れ作
三

うら枯れ行く里となりて人も見え[illegible]かりと

待る盛へし　　　　　　　　　　　柳松丸

百
吉野山ハ花の名所なるを[illegible]
桜花さく[illegible]めしれはも　　　　[illegible]を見ると[illegible]の[illegible]言也

冬之
やふれて淺茅か原の中ち山家の淺茅生色かわりて

盛りに冬の里の淺茅生色かわりて寒氣山ハ初

霰より降しきりて風かわりて

雪降りて寒さまさりんとこそ

讀人不知

冬六
吉野ハ吉野の山しらけれハ一日もみ雪ふらぬ日は

吉野の山さへも寒く雪ふりつもる

冬かれ遊ひも雪降りて日あたりし比之

里吉野の里とはいはせて同國ま

てふく住も遠さる所くしも吉野を

書の盛へきりおさはすみ里也里は

しる所有るるれさる家々は住まひ

も年久しくしもふかくして住みたる

盛へし　○三吉野の山の白雪積りけし

白く寒く雪降り　○三芳野の山の

秋風さむく吉野さく衣打也

冬六
今も昔も人の心を知る[illegible]

[illegible]つきて毎日て毎日て下ゐて
[illegible]れと東北の白雪とうしめてゆきの
[illegible]て白雪今うつ[illegible]て毎日て
[illegible]し待ふやとうひかり
源義経
[illegible]家宿北の[illegible]
[illegible]みとく家よてまつ
[illegible]ん

東下り

朝ゆく者五月の月とみまてよ吉野の里に降る白雪
夏まつよ大和國よりゆくり時雨降る

吹上見物 平盛文より

をとくゆくとあんな國下向の時清水
北野しやみ行くとこ宮ゆ行
きうとこ宮ゆ行
みうくゆ
物見清盛義経
何ゆ[illegible]
吉野盛く野の山の草まて
うくゆ
野くゆ
しとう

後京極摂政前太政大臣

題しらず
願上始の段ハ小筵霜夜とあるく一夜ならてはねられぬ
在上ハ始めの比枕詞之始めの又致忍せ新郭
をめしかの霜も日影も流れて今年も
今こそ一夜くらしかぬるねぬ也し勿忘
あまといけんあかまいそれが時とまりの紅
の道はちうひたすらと定家ハなしらまして
深くも漂夜の事とうき年のくし哭
一夜の取よなと流まくみるへし又続古今
由りとわくまて衣郭有ハ哀上始めと

讃のなるそのとき始のあしとて式盛の
独も衣郭にあらしともなハ数玉とて物と起き
朝く○つく稚を人〻もしかそあとあ今に読く
まるし連歌るもに封の分別あ人こそ之とく
いそめたとくは在上と玄にかくそて適脈
あく物経とくうとやあく小町 ○石のくに
年ひ孫とされも峰の宛し若の衣と
まかさあすん みしなみ ○世にもゆく苔の
衣たるめく一守へかく孫あくみしいつき姉さ
可孫ん

歌七

君か代ハつきしとぞ思ふ神風やみもすそ川のすまんかぎりハ

大納言経信

君とハ天照太神の御末まで[illegible]の世を見

さ[illegible]川の流ん[illegible]かぎり絶まじき也

御裳濯川ハ賀茂の歌也承暦二年内裏の

歌合に讀り大山[illegible]常に此高砂

[illegible]詞也京房の黄河ハ三千年に

一度すむとみえ此君か代の歌ハ正風

躰の[illegible]かさり[illegible]ひさしき

[illegible]て[illegible]人の[illegible]は面白[illegible]

此家ハ聞えたる事此歌ハ此辞を

取て俊成の竒の中に○又作者

野邊の秋風身にしみて鶉鳴なり深

草の里○吉野の花の盛を今日見れば

[illegible]風そ[illegible]是とめし[illegible]の縁草

[illegible]山風の[illegible]又○[illegible]

の[illegible]て[illegible]

是[illegible]の辞[illegible]

[illegible]風[illegible]紙の[illegible]

有難かりけるかな天照太神の末代なる
色好みも世法も専ら好みなりきて給ふ
歌人

僧正遍昭 大納言安世の八男俗名良岑宗貞

素性ハ
素性ハ家はもの字や世の中のとゝまりしをおもしろかりけれは
世の中のこゝろ盛に眼前にけりし物語の話を
断れ歌ありし新古今集に世のならひな
きはひとしもしかとけり何のまか遍しめ
まかしをりみる来の露に花の聲末
も草ともなく変知されく言連歌なれ

良岑宗貞
恩ある人ハ花の夜よおもひ出の袂よかゝれる世よ
事出る深草の御門の御時蔵人頭となり
紅葉ひとつまゝ源を縁由に物に
けまさしゆくるよ世の物語ともかくして[illegible]
乃山寺のかくれがにしらおもふしてまつりその
又の年蔵人の職をさてお源をかく帰り
給ひ太政よ源氏本源の大臣讃れ
と行の背ハ眼前と一回まもくこゝろ源より
みつから源氏物語なとおもしくとくして作りたき

はもの語には色しありて三年まて こと
ふりさく歌よんをかれ古今集にのせて
続古今の後拾遺の後に拾遺せられ
てきつみさりれせつかれ給ひ勅ありし
給ふ物なり　孝宗鐵之年一月宮

和泉式部 江州帥女 上東門院女房

猪月ハ不思儀下也ハ梅として揮まひ
友とは小式部内侍をもく後上東門院年に
みまかりけれ哀とおきさ思ひめて給ひけるを
かなしと書給ふ遠きを思ひ給ひとる

かさる事をいれは いはれぬ
く思ひ給ふ仏道の悪名と後代に残を
この歌之孔子春秋とそ述れ

藤原道信朝臣　恒徳公の子　為光公の孫

かすり猪よとそよめる枝の
人に別く躰哀にかかりかるれ物の
日数をたち遠みに思ふてその
時もかくいつれいつみとに
いろしき哀ともふ文范に露ともよそ

形見ハ千歳衣はすこしめども神と明風は比翼の眠り乃
夜さ之膝燒かゆりの有衣をふして讀らハ寂しさ
花ぬくし露となれハ秀縺の話是ハ封
海の奇れ浄しとそ

後鳥羽院御製

勢古八
あいあきたく業れ文縺じよふと嫁ニ立てさ
衰傷れハ奇く業燒と一淡して無人の旅
よ思合まとくあいひある挑うつくしに
むなくを嫁しと足うされ行まうて給之
高流よ無人の僻すと皆ひ出ぬひく無うさ

業れりるらしくむさぶ縺のとくよ仰の旨
乃御製之ここ文流云此御方ハ女御后女も
別させ給くの事女や無系和尚へ仰られ
給ふしくし

○思むう折くく業とゆく女母くひ立まあ
文けつう亦○をさへれ縺るるしなう
名もむ川すしき去れ母流衛とよかう仍笑
浄流是も詞書よ無常乃歌の初涯大纏流
まかり燒時ハ業れ縺を詳居すし流物する
と此れハ此縺ともしつまりしくハおきとへ孫搗也

山副長之

寅八
かいくの形見の雲や村雨りん夕の雨で色をみて稀と

此歌は蜀山老とき云題にて虹夕の雨
まゐは思ひ稀と云魂の雲と作中あまた
く無くの只とも云家のをよりて時雨待る
色甚色とはみて稀とく哀とも見れ候
いと待らん成へしと又当りまんといやおう
村雨りんも大方同しきへきの一流云様も今
喜雅の男と云人の二さの空やうしく秋のぬ
らもれたちまんとも系とも又共人をせのく

こそ子孫兼行瀬にもかきくしめれの毎
青き今くするくは鉄あらうや夕れ毎の色
いかし稀ともうしひ志いうろの調やまとれる
りん高云村雨りん共も添りん毎流あらう時
雨りんとよ代可薦らく形からの色もすもとき
くつとてもまとめさそれ見く雨くと思ひ
守阿れとて中流ふうらうみのそや村雨りん
このそえされ待つ成へしとてし終光入道
阿流かなし御雨今宗　劉

中納言行平　河原親王之男

立別しいなはの山の峯に生る松としきかハ今かへりこん

かの卿因幡守なりし任はてゝのほりける

とて此人に読をくりしといへり 又いなは

山は因幡の国にあり といふもいへり

伊勢物語にもかくもありける事なりと遠国に

六年近江国ハ三年として後山の事に濃州

いなは山とかきしも説あり 又越中集

にも此能をかきたりとも見え 信濃州

同州にもかく山ありとも万葉集

にも一同しおなしく此歌を後撰にて載

はゝきゝのありとはみえてあハぬ君かな

そのはらやふせやにおふると 此歌に

所の名をあはせていひならはせるなり

いまもかしこにははきゝあり 園原と

いふ所に 家の柱に 美濃の国の国境と

美濃の国のうちにある物と 別事と

美濃国に侍る山より此かしこの事を

座敷のうちにいひならはす 信濃の国を

遠江ハしるへと 又一段の所に 萬葉の

乃歌の遠江ハ もとの年は京に近くして

中納言入道懐堂と建立の三人納言行平之
橋氏之家に部あの音聞へ
つひに人の行くへ
しらず物思ふ流れ
絶へ立ちかへる
歌之結句感之

貫之

八

白雲の立ちかくすらむ
ありあけの月の中より
出でぬる海人の釣舟

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中納言行平

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]寛平法皇[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

なり 詩云 同道行 流連忘返 語云 京得浮生

半日閑

六十

立海のみを書くこうん 雲海やさとし海は道や流れ出る

此歌と定家卿の有一首歌とをうかがひ

乃至家の奥別より海を見い時は此歌より

うく感じ侍るとあ海まはは海上

[illegible]

なり京なら奥別まくい七八日はうち

より海家と屋をくと海ゆと海ゆい海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後京極摂政家百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水ゝ立とゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
いかゝせんとす[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後頼部法　経信卿母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後藤朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百姓ども[illegible]
集れる十五ばかり○曉時の明るさ百姓ども
居らるゝ所を教へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
書の変人[illegible]
[illegible]
[illegible]

冬十二

[illegible]

壬生忠岑

[illegible]

先[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

讀人不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]上弦の月を下弦の月と
[illegible]

元良親王　陽成院皇子

[illegible]十
遠き遠山[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人のりて海の雲山をとうやうてのの松と成
[illegible]ん河に志ゝを我年にかゝらしとうひ
しるされ趣ゝとゝく波のうしゝをひ
てちゝ[illegible]夏の月長くとゝ[illegible]
ゝ仏之の新山五文字[illegible]要ゝ人のゝ[illegible]
流変に中ゝ[illegible]我ゝ[illegible]人[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

西行法師

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

とうろうを四方へ一つ〇あかりをつけるとき
てしこまてこれはまことの人の老とあるものに
つるもはんぬへ一〇世にあるものとかしよ
ものさ物と月毎にくるひ歌さうしつ〇待ひ
[illegible]
[illegible]